

第182回 令和8年2月25日（水）

「G2について」

世界史の授業でトリデシリャス条約を聞いたことがある人もいると思います。これは1494年6月7日にスペインとポルトガルの間で交わされた条約で、新しい世界（特に海外領土）の分割について合意したものです。

15世紀から16世紀にかけてスペインとポルトガルは、アジアやアフリカへの航路を開拓し、新しい領土や資源を求めて海外へ進出する大航海時代を迎えていました。コロンブス（スペインの支援を受けた）が1492年にアメリカ大陸に到達して以降、新しい世界を巡る領土争いが激化しました。

ポルトガルも1488年にバルトロメウ・ディアスが喜望峰を発見し、アフリカ周辺での航路開拓や貿易に成功し、海洋貿易で先行していました。争った両国はトリデシリャス条約を結ぶのですが、その内容は地理的に大西洋上の一つの子午線を基準に世界を分割することが定められました。この分割線の東側の領土はポルトガルに、西側の領土はスペインに属するとしました。この分割により、スペインはアメリカ大陸のほぼ全域を支配する権利を得ました。ポルトガルは、アフリカ、インド、さらには後にブラジルに領土を確保しました。

アメリカのトランプ大統領が口にする「G2」は、アメリカ合衆国（USA）と中国（China）という世界の主要2大国を指します。これはグローバルな二極体制として、中国とアメリカが世界の政治、経済、軍事において支配的な役割を果たしている状況を表現する言葉です。

21世紀に入り、中国が急速に経済成長を遂げ軍事力を拡大し、世界の秩序に大きな影響を与えるようになりました。貿易戦争や気候変動や国際安全保障など、両国が協調または衝突する場面も多くなっています。

それでもディール（取引）好きのトランプ大統領なので、「G2」という表現で中国とアメリカで世界を2分する構想を話したこともあるようです。もちろん公式の発表ではないのでどこまで本気なのかはわかりません。

しかしこれを聞くと過去のトリデシリャス条約を想起してしまいます。トリデシリャス条約も植民地化されるアフリカや南米の原住民はまったく知らない主権を無視した条約でした。「G2」の構想にも同じような矛盾を感じざるを得ません。

大国だけが自由に地球に線を描くような時代に戻らないことを願っています。弱小国でも守られるために国際法があります。法の支配が優先する世界が続いてほしいと思います。最近のニュースを見るにつけ、力の支配に切り替わっているような気がしてなりません。